

実施日：1月29日（6校時）	
教科等：各教科（保健体育）	
取組名：健康な生活と病気の予防（エイズの予防）	
対 象：3年生	実施場所：礎教室
ア ねらい	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エイズの疾病概念や感染経路、感染リスクを軽減する効果的な予防方法を身に付ける必要があることを理解させる。</li> <li>・ 性的接触や感染者に対する差別や偏見について自分事として捉え、今までの保健体育の学習やそれ以外の学習ともつなげながら、自分を含む周りも安心・安全に暮らしていく社会にしていくなめにはどうしたらよいかを考えさせる。</li> </ul>	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要	
<p>単元構想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元の導入である感染症から身体を守る体内の仕組みなどは、一見イメージしにくい内容であるため、体内の細胞を擬人化し、生徒たちが得意な劇風にアレンジして伝える。</li> <li>・ 高校生活で、一般的に経験しそうな性に関する場面をみんなで出し合い、どのような言動をとるべきかをロールプレイを取り入れながら明るく楽しい雰囲気考えさせる。その際、学んだ知識や頭ではわかっていることを行動へと変容させることがいかに難しいかも実感させる。</li> <li>・ 単元を進める過程で、エイズに対してはその差別や偏見についても触れる。その際、保健体育だけでなく、今まで学んだ人権教育の学びともつなげていく。</li> </ul> <p>本時</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染と発病の違いや病原体が体内に侵入してきたときの体内の働きをふり返る。</li> <li>・ エイズについて理解するため、1980年代の当時の人になりきり、エイズ報道を聞いた際の気持ちを発表する。</li> <li>・ 病気に対する不安や恐怖から、差別や偏見がうまれたことを実感する。</li> <li>・ エイズに対して感染経路や予防方法等、正しい知識を理解する。</li> <li>・ 当時（1980年代）の人たちに対して、未来のみんなからアドバイスを送る活動を通して学びを整理し、深めていく。</li> </ul>	
ウ 連携先： 家庭	
エ 連携にむけての取組：	
<p>学年通信等で生徒の授業の様子や授業後の感想を紹介し、学びの内容を理解してもらうとともに、性やその差別、偏見等について親子で話し合うきっかけにする。</p>	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 養護教諭と連携し、授業の内容やその後、親子で話し合った内容を保健だより等で紹介してもらい該当学年だけでなく、全校生やその保護者にも学びを伝えていく。</li> <li>・ 校内研修で授業のふり返りを行い、性教育や人権の観点から各教科で連携できることや、普段の生活や学級経営の中で取り組めることを話し合う。</li> </ul>	
カ 評価の方法	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保健体育ノートの記述内容、感想 ・ 授業中の発言内容</li> </ul>	
キ 成果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業後に、自主的な学習としてハンセン病について調べ、エイズとの共通点を感染症の視点と差別や偏見の視点からまとめてくる生徒が目立った。</li> <li>・ 性感染症やエイズについてだけでなく、性についても家庭で初めて話をした生徒が増えた。</li> <li>・ 性について自分や相手を守る視点から、性的接触やその予防法などについて相談をする生徒ができた。</li> </ul>	
ク 課題	
<p>本時の学びが授業後の実生活へといかにつなげていくのか、またどのようにつながっているのかを継続して観察し、指導、評価していくことが必要である。</p>	